

## おわりに

昨年度から、視聴覚教育委員会、情報教育委員会が統合され、本委員会は2年目をむかえました。小学校では来年度、中学校はその翌年に新学習指導要領の完全実施が迫る中、本委員会では、新しく小学校から導入されるプログラミング教育に焦点をあて、夏季研修会を実施しました。本年度の研究紀要の各支部報告からも、プログラミング教育については、各支部の実態に応じた研修が行われており、来年度からの実施に向けて大きな課題としていることが伺えました。本委員会では、年間計画の作成や教材選定等、学校現場の参考となる研修機会が提供できるよう、本年度の反省を踏まえ、来年度の計画に取りかかっているところです。

そのような中で、昨年末に閣議決定された「GIGAスクール構想」について、文部科学省からも様々な情報が発信されています。急速に進展する高度情報社会に対応すべく、学校のICT環境の整備のために講じられるこの新たな財政措置は、学校現場に、これからの数年の間に「未来の学び」に向けた、大きな変化の波をもたらすことが予想されます。プログラミング教育を含め、高速大容量の通信ネットワークに接続された一人一台のコンピュータの活用など、教育現場には、令和時代のスタンダードとして、これまで以上に積極的にICT機器を活用することが求められています。

また、働き方改革という観点からも、業務改善の一環として、県下の自治体ごとに統合型校務支援システムの導入が進んでいます。Society5.0時代に生きるのは子どもたちだけではありません。整備されたそれぞれのICT環境を、どのように活用していくかということについては、我々教職員自らが、主体的に学び、実践していく必要があることは言うまでもありません。

ただ、忘れてはならないことは、ICT機器の活用は、手段であって目的ではないということです。ICT機器の「つながり」ではなく、その先にある人と人の「つながり」を意識したコミュニケーションの手段となる視聴覚・情報教育の実践が大切です。

本委員会においては、そういった視点を重視しながら、今後もICT機器を有効活用した授業実践研究やプログラミング教育の実践事例の紹介、県下のICT環境の整備状況調査等に焦点を当てながら、研修会の充実を図り、Webページに研究の成果を掲載することによって、微力ながら愛媛の視聴覚・情報教育の推進に貢献していきたいと思っております。

最後になりましたが、本年一年間の活動に対する皆様のご協力に深く感謝いたしますとともに、今後の愛媛の視聴覚教育、情報教育推進のために、共に取り組んでいただくことを重ねてお願い申し上げます。

令和2年3月

愛媛県教育研究協議会視聴覚・情報教育委員会